

農林水産部

バイオ燃料の利活用拡大に向けて

Point

平成19年3月28日、バイオ燃料の利活用拡大に向けた取組のさらなる推進に寄与することを目的として、今年で4回目となる「沖縄バイオマスセミナー」を開催しました。

昨年3月に新たな「バイオマス・ニッポン総合戦略」が策定され、バイオマス利活用のより一層の推進を図ることとされました。また、11月には、総理が、国内のガソリン消費量の1割程度の600万KLまでバイオ燃料の生産拡大を目指す」と表明され、これを受け本年2月には2030年頃を目標とした工程表が策定されたところです。

こうした動きを踏まえ、今回のセミナーは、バイオ燃料の利活用拡大に向けて」と題して開催されました。最初に、農林水産省の長峰氏から「国産バイオ燃料の生産拡大と支援策」と題し、我が国におけるバイオ燃料をめぐる情勢、政府の支援策、国産バイオ燃料の生産拡大に向けた工程表について説明がありました。次に、三井物産(株)の宇野氏から、「世界のバイオ燃料利用の状況と今後の展開」と題して、各国・地域におけるバイオエタノールとバイオデ

ーゼルの状況について紹介がありました。

最後に先進地の事例紹介があり、まず、アサヒビール(株)の飯島氏から事業概要について説明がありました。同社は、伊江村において、従来どおりの量の粗糖製造を行うと同時に安価にエタノールも製造できるモデルを実証することを目指し、実証事業を実施しています。具体的には、まず、高バイオマス量さとうきびを1回結晶化し粗糖を製造した後の糖みつからバイオエタノールを製造し、さらに、これを原料に製造したE3ガソリンを、伊江村の公用車で使用する走行試験を行っています。引き続き、(株)レボインターナショナルの越川氏から事業概要について説明がありました。同社は、京都市などにおいて、飲食店や一般家庭から回収した廃食用油を原料としてバイオディーゼル燃料を製造し、ごみ収集車の燃料等として供給する事業を展開しています。

また、それぞれの講師の説明を踏まえ、

・バイオ燃料の生産拡大について、生産過程で必要となるエネルギーの供給をどう考えるのか
・アサヒビール(株)の実証事業において原料として使用されている高バイオマス量さとうきびについて、従来種のとさとうきびと同様の工程で製糖した場合、製糖量はどの程度増加するのか
等について質疑応答がありました。沖縄は、自然の美しさをセールスポイントにした観光立県で、かつ、海に囲まれた閉鎖的な島嶼県でもあることから、資源循環に向けた取組が他県にも増して重要です。沖縄総合事務局では、今後も引き続きこのようなセミナーの開催や各種支援策により、バイオ燃料を始めとするバイオマス利活用の取組を後押ししてまいります。



会場の様子



農林水産部長の挨拶